



企画展開催のご案内

ルネ・ラリックの
水のかたち

2021年4月24日(土)～2021年11月28日(日)

水鳥や魚、水の精たち——
フランスの水辺が育んだジュエリー・ガラス工芸の結晶

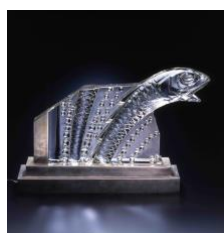
生命の源である水は、古来、信仰や祈りの対象であるとともに、芸術家たちに多大なインスピレーションを与えてきました。故郷シャンパーニュ地方を流れるマルヌ川、別荘があったクレールフォンテーヌの白鳥の池、パリの自邸前を流れるセーヌ川など、人生の多くをフランスの水辺の地ですごしたルネ・ラリック(1860-1945)もその一人。トンボや魚、水鳥などの水棲生物をモチーフに、精緻な細工と洗練された意匠によって水のもたらす自然の恵みを生き生きと表現したほか、シレーヌ(*水の精。セイレーン、サイレンともいう)やナイアードといった精霊たちの姿に変えて、かたちを持たない水の神秘性を目に見えるものとして造形化したのです。

日本美術の影響を感じさせる流水紋や、アール・デコ期を特徴付ける幾何学的な波文様など、ラリックの水のかたちは変幻自在。その多彩さは、七宝やオパールセントガラスなどの斬新な素材の起用や、クリスタルガラスの加工技術の研究によって生み出されました。1925年、パリで開催された現代装飾美術産業美術国際博覧会(通称アール・デコ博)のために制作し、現実の水そのものをもデザインに取り込んで母国フランスの水の恵みを讃えた巨大な噴水塔《フランスの水源》は、ガラス工芸家としてのラリックの集大成とも言われています。

箱根神社の「龍神水」や芦ノ湖スカイラインにある「命の泉」など、水にまつわる伝説が数多く残る箱根の地にて、ラリックがとらえた水之美と恵みを堪能する本企画展を、ぜひご紹介ください。



▲彫像《泉の精メイト》1924年



企画展限定スイーツ



展覧会のテーマ「水のかたち」をイメージしたオリジナルスイーツ。(※写真はイメージです)

- ◀写真上/蓋物《二人のシレーヌ》1921年
- ◀写真下左/ペンダント《二羽の白鳥》1898-1900年頃
- ◀写真下右/噴水のパーツ《魚の泉》1937年

【主催】箱根ラリック美術館
開館時間:9:00～17:00 (美術館入館は 16:30 まで ※臨時休館の場合あり、最新情報は、公式ホームページをご覧ください)
入館料:大人 1500 円/大・高生・シニア(65 歳以上)1300 円/中学生・小学生 800 円
所在地:神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 186 番 1 TEL:0460-84-2255
箱根ラリック美術館公式サイト www.lalique-museum.com/

【お問い合わせ】箱根ラリック美術館 (広報担当:古川) TEL:0460-84-2255